

創作オペレッタの実践報告

古屋 祥子 沢登芙美子 高野 牧子

キーワード：オペレッタ、創作、表現

はじめに

2009年7月14日、本学講堂において、本学人間形成学科4年生制作・出演の創作オペレッタ「きみのいいところ～ちいさな勇気があつまれば～」の発表会を、甲府市内の幼稚園・保育園に通う園児約150名を招いて催した。この公演は、本学人間形成学科4年生対象の授業「総合表現演習」の一環であり、授業の最後がこのような公開発表となっている。本稿では、授業「総合表現演習」を分析対象とし、学生たちが実際に行ったオペレッタ制作と上演の準備、発表に関わる事柄を追うことで、現場での状況の把握と今後の課題点を検討することを目的とする。

I 「総合表現演習」の概要

1 授業内容

テーマを設定しオペレッタとして発表する。脚本制作から音響、照明、衣装、舞台美術、ダンスなどの舞台づくり全てを学生が主体的に行い、また、公演当日の出演、諸準備も学生が分担し総括的に取り組む。実施は、2009年前期、2時間続きの180分授業。履修した学生は、人間形成学部4年の24名。

2 授業目的

本科に入学した学生が、1年から3年になるまでの3年間に学んできた様々な分野での学習⁽¹⁾を、横断的かつ総合的に捉える実践。特に、音楽、造形、身体表現を中心とした表現領域の内容に、総合芸術の視点を持って表現活動を行うことを目的とした授業である。この機会に学生たちは「子

どもにとっての表現とは何か」という基本的な考察をし、幼時の発達段階に見合った内容の表現を創作する。

3 授業計画

① 授業内容説明

対象：年長児

② テーマ、ストーリーの設定

伝えたい内容を決め、どのようなストーリーでその内容を伝えていくかを学生間で話し合い、大枠を決める

③ 参考資料の紹介

前年度の4年生制作・上演のオペレッタ「きみはだれ」の上演ビデオ、制作記録ノート

④ 主として行う役割分担〈監督、脚本、美術（大道具・衣装・ポスター）、ダンス、音楽、照明等〉

分担内容の説明をし、各学生が得意とする分野または取り組みたい分野を話し合い、決める

⑤ 各分野に分かれて制作

各分野にリーダーを決め、段取りやスケジュール、分担などを決める（役者、当日の担当は分担とは別に）

⑥ グループに分かれて練習

⑦ 立ち稽古

全体のつながりや段取り・立ち回りなどの良くない部分を挙げ、個々に演技指導する（授業「身体表現演習」での指導も含む）

⑧ VTR 個人評価

練習風景を録画し、それをみんなで見ることで、演技を客観視し、改良点をあげる

(1) 保育内容（言葉・人間関係・身体表現・造形表現・音楽表現・演劇表現・健康・環境）、乳幼児心理学、乳幼児教育論、教育基礎論、対象理解、乳幼児と遊び、保育とジェンダー、伴奏法、音文化演習、歌唱演習、絵本制作、造形演習、教育心理学、幼児音楽、教育方法論、教育課程論、乳児保育、小児保健、保育学、保育学実習、障害児保育などの授業

（所属）

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科

⑨ リハーサル

照明、場面転換等の段取り確認

⑩ 発表（本学講堂において公開発表）

⑪ 反省

各分野に分かれ、授業での取り組み内容や、
進行状況を記録すると同時に、反省点や改
良したポイントなどを出し合う

4 上演スケジュール

10 時半開場

会場には音楽をかけ、園児を席に誘導（案内、
受け付けは形成3年生に依頼）

11 時開演

手遊び・お約束（10 分）

上演（35 分）

退場（5 分、キャストが舞台から降りて誘導役
をする）

11 時 45 分閉演



手遊び・お約束

オペレッタの上演前に、導入・注意事項伝達のため、オリジナルの手遊びを披露。続けて子どもたちもいっしょに手遊びをする。



リハーサル風景（講演前日）



衣装合わせ

II 制作過程と反省

1 制作過程

以下の表は制作過程を分担ごとにまとめた結果である。

	脚本・演出	美術	ダンス	音楽・照明
担当／日付	加藤、大谷、森田、高根、齊藤、田中（達）	多田野、大塚、和田、宮下、細田、武石、川合、川端、知念、石橋	有賀、小川、前田、松野、渡部	穴水、小林、田中（美）（石橋、大塚）
4/9	テーマ設定→友達を大切に 協力 いいところ（グループで案を出し多数決）			
	モチーフ決め→海の動物に決定（陸の動物 or 海の動物で意見がわかれたが、討論の結果）			
4/13	第1回脚本チーム集まり シナリオ作り（登場人物、設定、話の大枠を考える）		曲探し、曲決め→アンダー・ザ・シー、明日も友達、アラジン	
4/16	考えを授業時間に報告し、皆の意見を聞く			
4/20	第2回脚本チーム集まり シナリオ作り（台本、場面転換を考えながら）		キャラクター紹介考案	
4/22	第3回脚本チーム集まり シナリオ作り（台本、場面転換を考えながら）			
4/23	シナリオをパソコンに打ち込み製本	デザイン画制作		会場照明機材確認
4/30	台本配布	デザイン画完成・材料選び		
5/7		タコ・イカの足試作	DVDを参考に振付を考える	レンタルショップからサウンドトラックや効果音のCDを借りてくる
5/14		岩の制作開始（リバーシブル仕様）	「明日も友だち」歌詞を変える	台本の内容を考えながら曲を選択（サメの登場、泡の音、戦いのシーン、イルカ先生さらわれる、エビの登場、勝利、決意のシーン、サメの再登場）
5/21	子どもたちへのプレゼント（ブレスレット）を考え作成 ご案内パンフレット完成・園に配布	舞台の寸法計測	それぞれの役者の振付	ダンスの曲決め→アンダー・ザ・シー、明日は友だち、アラジン
5/28	会場入り口に設置するサメの門作成	本棚制作開始		ソロの歌を考える（「山の音楽家」の曲にそれぞれのキャラクターに合わせて歌詞を作り変える） 舞台前の曲決め 「山の音楽家」の曲にそれぞれのキャラクターに合わせて歌詞を作り変える
6/4		柵（小道具）制作開始 エビのしっぽ（衣装）制作開始	皆に振付を教える 曲の編集	「明日も友だち」編曲（変調、シンセサイザーの音を決める） ソロの歌の音程、音色の決定（歌う人の声に合わせて）
6/11		岩（小）、本棚完成		効果音の決定→シンセサイザー、民族楽器
6/18	導入の手遊び（曲、歌、振り）とお約束を考え練習 大道具・衣装制作の手伝い	柵、カギ完成 大岩制作開始		曲を一枚のCDにまとめる キャスト全員で練習《音を出すタイミング、音量などの確認》
6/24		舞台上のポールに布をかける（試し）		
6/29		タコ・イカの足、エビしっぽ完成 イカの頭試作		講堂での練習 《マイクの位置・音量・数の確認、会場全体の音量調整、シンセサイザーの微調整、オープニングの曲変更》
7/6		窓、室内装飾（絵）、杖、制作開始、大岩完成		
7/7		泡モビール制作開始、イカの頭完成		
7/13	リハーサル 注意点の指摘	泡モビール制作完成 壊れた大道具の修復、最終調整 取り付け、設置 会場の装飾	リハーサル 立ち位置等最終確認	リハーサル 音響・照明最終調整
7/14	最終リハーサル、本番			

2 反省

学生から出された、制作を振り返っての反省・改良点を分担ごとにまとめる。

・脚本チーム

〈脚本〉

初めて通し稽古をしたときに思ったよりも内容が浅く感じ、展開があっさりしすぎていると思ったが、逆にそれが子どもたちにわかりやすかったと高評価だった。

台本完成後の変更を全てキャストの人に任せてしまった。

脚本作りは早く取りかかったので台本を早めに配布できよかった。

〈プレゼント制作〉(図1参照)

手の込んだものを考えたため、大幅に時間がかかった。

強度が少し弱い構造だったため、壊れてしまう子どももいたので、多めに作っておいてよかった。

〈手遊び、お約束〉

歌うことを考えずに作った曲で手遊びを考えたため、音をとるのが難しく歌うのに苦労した。子どもが盛り上がって騒がしくなったときに静かにする方法を考えておくべきだった。

予想以上に盛り上がってよかった。

・音楽チーム

自分たちで作曲するものがもっとあってもよかった。

〈後輩へのアドバイス〉

ソロや効果音はやっている人に合わせる必要があるので生演奏の方がよい。

講堂は音響設備が整っていないのでノイズ対策や音量の調節が難しい。工夫が必要。

練習を始めるとその都度変わるところがあるので、メモをしっかり取った方がよい。

・美術チーム

〈頑張ったこと〉

遠くから見た印象を考えなければならなかったのが大変だった。

コストをかけないように材料を選んだ。

強度を考え適切に補修した。



図1 当日来場者に配ったプレゼント



図2 講演用チラシ



図3 衣装下図(一部)



図4 パフォーマー衣装

リバーシブル仕様にして場所を取らず、且つ場面転換を可能にした。

装飾を会場全体にいきわたるようにした。

岩の質感が出るように工夫した。

舞台の装飾を何度も試行錯誤した。

〈ためになったこと〉

限られた材料でいかに作るか工夫する力がついた。

スピーディで正確な作業力がついた。

美的センスがついた。

〈反省点〉

作業計画の詰めが甘かったので、具体的な完成のイメージがつかみづらかった。

作業は後半に追いつけたが、もっと早めに着手できたらよかった。

・ダンスチーム

全体的に計画的に進んだのでよかった。

その都度改良していったのはよかった。

ダンスの練習時間が足りなかった。

皆にダンスを教えるタイミングは、曲の編集を完成させてから方がわかりやすかった。

Ⅲ 授業成果

1 アンケート調査

① 配布方法

アンケート用紙を公演前に受付で渡す

② 回収方法

公演後3日間回収ボックスを設け回収

③ 回収内訳

有効回答数の内訳は本学人間形成学科1～3年生48名、卒業生2名、教員1名、甲府市内幼稚園・保育園の先生3名

④ 結果（詳細は参考資料・表1、2を参照）

- ・本学学生・卒業生・教員からの回答では、多くの項目において「とてもよい」が平均約95%となった。
- ・保育園の先生方からの回答では「とてもよい」が平均約67%、「よい」が平均約33%となった。テーマが伝わったかどうかを尋ねる項目で「どちらともいえない」の回答が33%となった。今後はこの幼児期の

子どもたちに内容を伝えるという問題に関して、指導を工夫したい。

おわりに

アンケート結果及び学長のブログ（資料3参照）からも、発表当日の舞台の仕上がりは、学生が制作から上演まで全て主体的に取り組んで作り上げたものとしては、良い出来であったと言えるだろう。実際に、公演当日の会場では、約40分のステージを子どもたちは楽しんでいて、舞台に集中し感情移入する場面も多く見受けられるなど、会場全体が活気に満ちていた。学生たちも、子どもたちを目の前にした本番の舞台では、練習やリハーサル時に比べ、どのシーンにおいてもアドリブや子どもたちとの掛け合いが入るなど、子どもたちの反応を肌で感じ取りながら演技する様子が見ええた。照明や音響のタイミング、舞台美術による場面転換なども練習通りスムーズに進められ、本番の舞台がそれまでの練習をはるかに上回り、言葉では表現しきれないほどのパワーを生み出していた。この創造的な時間と空間を、演者・スタッフ・観客のみんなで共有できたことで、学生は「人の心に働きかけることができる」という表現の持つ奥深さを体感する良い機会を得たと思われる。自分たちで作り上げた創作物が鑑賞者に「感動」を与えることができるのだ」ということを確信できたことは、今回の授業の一番の成果であると考えられる。

しかし、この制作も最初から好調であったのではない。当初は、すべての学生が「自分たちでできるのか」という不安を強く持っている様子であった。さらに去年の卒業生による創作オペレッタの公演が好評であったために、それと同じようにできるのかなどのプレッシャーを抱えてのスタートであった。だが、オペレッタの制作に不可欠である協力・分担し、ゼロから少しずつまとめて改良するという作業を進めていく過程で、協力し合うことの重要性や、議論や作業を通して学び合う楽しさを実感し、取り組みに熱中していく様子が徐々に見えてきた。また、多様な問題に対して考え、チャレンジして成功させるという試行錯誤が予想

以上の効果をもたらした。更に新たな視点が開かれるケースも多く、自己の成長を実感することができていたようである。今回の授業趣旨である学生の主体性を尊重した授業の進め方は、学生の責任感とやる気の活性剤となり、さらに前向きに物事を考えるようになるなど、楽しく作業を進めることに繋がった。これらの経験を経て学生たちは次第にプレッシャーを乗り越え、“感動”を共有する作品をつくりあげることができた。このことは、学生たちに大きな達成感と充実感をもたらすこととなり、学生たちの自信を形成することにも繋がったと感じられる。

学生の授業に対する関心は、大学で行われる「学生による授業評価アンケート」の結果にも示された。「総合表現演習」の「満足度」の項目は平均値を大幅に上回るものであった。この結果からも、価値あるものを自らの手で作り上げたことに対する達成感と充実感、高い評価も得たという成功感、そして人を感動させることができたという発見などが学生にとって重要であったことが読

み取れる。

今回、学生は一連の経験を通し、仲間の協力や学び合いの楽しさ、試行錯誤ののちの進歩、子どもたちに感動を与えられる喜びなど、得たものはそれぞれにあったと感じる。これが、全ての履修生の将来において有意義に活用されることを期待したい。

今後の課題としては、オペレッタ制作においてより大きな感動体験を創造するために、芸術性の向上と、対象者となる幼児に向けた表現のあり方の追求が挙げられる。音楽、ダンス、美術などの各芸術分野、また幼児に対する教育分野において理解を深めていくことと同時に、学生の見聞を広め、受け取る側の視点を把握するためにもプロフェッショナルによる舞台を鑑賞する機会を設けることを検討していきたい。さらに、具体的な改良を要する点には、公演会場である講堂の音響効果、照明機材設備、大道具・衣装などの制作費の確保などが挙げられる。学生たちの自由な表現を再現するための環境づくりを充実させていきたい。



資料

表 1 アンケート結果（学内学生）

学内学生	5 = とてもよい 4 = よい 3 = どちらともいえない 2 = 工夫が必要 1 = もっと工夫を															
設問	回答（1年生） 回答数 16					回答（2年生） 回答数 13					回答（3年生） 回答数 19					
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	未
Q：オペレッタの内容はいかがでしたか？	15	1	0	0	0	12	1	0	0	0	19	0	0	0	0	0
Q：楽しめましたか？	15	1	0	0	0	12	1	0	0	0	19	0	0	0	0	0
Q：テーマは伝わりましたか？	15	1	0	0	0	12	1	0	0	0	18	1	0	0	0	0
Q：キャストの演技は？	15	1	0	0	0	12	1	0	0	0	18	1	0	0	0	0
Q：美術（衣装、大道具など）は？	15	1	0	0	0	13	0	0	0	0	18	1	0	0	0	0
Q：音楽（歌や効果音など）は？	15	1	0	0	0	12	1	0	0	0	19	0	0	0	0	0
Q：ダンスは？	14	2	0	0	0	12	1	0	0	0	18	0	0	0	0	1
Q：自由に感想をお書きください。																
以下抜粋【1年】																
最高でした！ かつよかったです。私たちも4年になったら頑張りたいなって思いました。																
とても楽しめました。自分たちも4年になったらやるかと思うととても焦りました。子どもたちの反応をつかむのは簡単なようで難しいんだなと思いました。																
とても楽しく見れました。話し方も聞き取りやすく、ブレスレットもすごくいいと思いました。会場飾り付けもかわいくてよかった。																
子どもたちも参加しながらの劇でおもしろかったです。子どもたちのリアクションもかわいかった。自分たちも頑張りたい。																
感動しました。泣きました。																
完全に子どもたちの心をかんでいて素晴らしかった。ストーリーもとてもしっかりしていてちゃんと伝わっていたと思う。子どものパワーをもらうというアイデアがよかった。																
【2年】																
衣装やステージの飾りもとても凝っていてきれいですごいなあと思いました。ダンスや声かけに対して子どもたちがすごく反応して一緒に踊ったり口々に答えたり、すごく会場が一体化している感じがしました。サメと戦うところで子どもたちが応援する姿が印象的でした。音楽も高さやスピードの変化が登場人物に合っていて良かったです。																
ダンスや歌の導入が上手だと思った。キャストひとりひとりの動きが大きく表現が上手で見ていて飽きることがなく次にどうなるかと興味を持ちながらみることができました。																
テーマに沿って作られていることがとてもよく伝わった。ダンスも本格的で驚いた。演者がみんな笑顔でとても楽しそうで私もとても楽しかった。静かなところ、悲しい場面と楽しい場面のメリハリがあってドキドキしたり悲しくなったりうれしくなったり、見ていてとてもわくわくした。大道具も海の中の様子がきれいに作られていて素晴らしく、衣装もかわいく華やかだった。幼稚園の様子も本棚があったり絵があったりこっててよかった。歌は知っているものだったのでのりやすかったし、ダジャレが入っていて爆笑だった。感動して最後は泣きそうになったりして、30分でここまでドキドキしたのは初めてです。本当に素晴らしかったです。ありがとうございました。																
布や幕がきれいに見えた。最後の歌の伴奏は楽譜を持って聴きたかった。																
【3年】																
美術や音楽で引き込まれていく感じがした。																
皆さんの顔がとても生き生きしていた。																
手遊びを教えてほしい。																
完成度の高い作品で感動した。すべてを自分たちで作り上げるというのはとても大変だったろうと思った。																
とても見入ってしまった。演技も素敵で、生演奏もすごいなと思いました。																

表2 アンケート結果（学生以外）

学生以外	5 = とてもよい 4 = よい 3 = どちらともいえない 2 = 工夫が必要 1 = もっと工夫を										
設問	回答（卒業生、教員） 回答数 3						回答（園の先生） 回答数 3				
	5	4	3	2	1	未	5	4	3	2	1
Q：オペレッタの内容はいかがでしたか？	2	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0
Q：楽しめましたか？	2	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0
Q：テーマは伝わりましたか？	2	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0
Q：キャストの演技は？	2	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0
Q：美術（衣装、大道具など）は？	2	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0
Q：音楽（歌や効果音など）は？	2	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0
Q：ダンスは？	2	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0
Q：自由に感想をお書きください。											
以下抜粋【卒業生】											
去年とはまた違った感じで、4年生の個性が十分に発揮されていました。みんな演技も大きく、遠くで見ても誰がしゃべっているのかしっかり伝わってきました。みんな成長したなあと感動しました。休みを取って見に来てよかったです。											
衣装や舞台もすごくかわいくてセンスが良くて「海の世界」に引き込まれる感じだった。卒業してもオペレッタはきっと思い出に残ります。お疲れ様でした。											
【教員】											
昨年の4年生が素晴らしかったのできつととてもプレッシャーがあったと思いますが、それをはねのけて頑張ったのがうれしいです。ストーリーは昨年よりもシンプルだけれどその子どもたちへのメッセージがよりはっきりしたと思いました。美術は特に色が美しかったです。最後の歌は子どもたちがその場に立ってすぐ見て踊るには、少しテンポが速くて難しかったかなと思いました。											
【保育士の先生】											
昨年度も見学しましたが、それより内容（ダンス、音楽、衣装など）がとても良くなっていると思いました。子どもたちは「すごい海の中みたい」などときらきらの貝などを見て喜んでいました。また見たいなどの声もたくさん出て、本当に楽しい時間が過ごせました。											
ご招待ありがとうございました。学生の方々が制作したとは思えないほど装飾、大道具、演技、ダンス等全て本格的で完成度の高さに驚きました。皆さんで考え練習し、作り上げたものだと感じました。また、開演前に学生の方々から話しかけてもらえ、楽しく過ごせたことも子どもたちはすごく喜んでいて、園への帰り道もそのことや、海の仲間の話題でもちきりでした。楽しい時間を本当にありがとうございました。これからも頑張ってください。											
ストーリーがわかりやすく、子どもたちにもよく伝わってとても楽しんでいました。学生さんたちも生き生き演じていてすばらしかったと思います。開演までの待ち時間に、手遊びやちょっとしたゲームをしてもらえるとても楽しく過ごせたのではと思います。											

資料3 2009年7月14日付け学長ブログ『感動したッ!!』

7月14日午前11時から本学飯田キャンパス講堂では、市内幼稚園から多勢のおちいさいお客様を多数お招きして、創作オペレッタ『きみのいいところ』を上演いたしました。出演は、人間形成学科の4年次生総勢20人。

《あらすじ等中略》 会場のおよそ130人ほどの小さいお客様たちはしっかりと舞台に感情移入！先生が連れ去られるシーンでは悲しく、かつ不安にかられ、またみんなで力をあわせてサメと戦うシーンでは舞台と一緒に戦いました。かくて、30分の舞台は大きなおおきな拍手で幕となりました。

出演した学生の皆さん、おつかれさま。小泉純一郎元総理のワンフレーズにならって、私も「感動したッ!!」

資料4 台本「きみのいいところ ～ちいさな勇気があつまれば～」

キャスト さかな 穴水克脩
 サメ 加藤竜
 なかま ハリセンボン 有賀愛
 カニ 松野晃子
 あんこう 森田哲平
 タコ 小川絵里菜
 イカ 武石咲乃
 老人 えび 田中達彦 和田望
 パフォーマー 昆布 大谷幸穂 齊藤美由紀 川合澄佳
 貝 多田野唯 高根由貴
 ヒトデ 宮下史絵 渡部由香
 さかな 知念紘子 細田智香
 スタッフ 音響 小林佳緒璃 田中美由紀
 照明 石橋加奈子 大塚清美
 総監督 田中達彦

.....
 (全員) きみのいいところ < OP アンダー・ザ・シー >

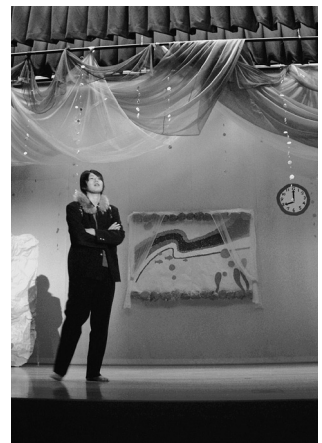
①プロローグ

・イルカ先生を残し、照明、大道具、海老夫婦は舞台をはける
 ・後ろの幕を開け、幼稚園の背景へ

(イルカ先生) みなさんこんにちは～！
 (子ども達) こんにちは!!
 (イルカ先生) 海の幼稚園によこそ。私はここで先生をしているの。
 皆は幼稚園や保育園でどんな遊びが好きかな？
 (子ども達) サッカー！ かくれんぼ!! 鬼ごっこ!!etc
 (イルカ先生) 先生が今から言う遊びを「好きだよ～」っていうお友達は
 元気よく手をあげてね
 じゃあ、お絵かきが好きなお友達～！?
 次は、お友達とお外で遊ぶのが好きだよっていうお友達～！?
 皆は、お友達と喧嘩しちゃうことってない？
 実はね私のクラスでは毎日毎日喧嘩ばかりしているの。
 どうしたら喧嘩しなくなるのかしら？ うーん
 あ!! そろそろ皆が来る時間だ。
 ・サメの登場音 ・サメが舞台左手から登場

(サメ) 俺は海の中で一番強いサメ様だ!!
 意地悪することだ～い好き!!
 あれは幼稚園のイルカ先生だ、イルカ先生がいなくなれば
 皆困るんだろうな～
 よし、イルカ先生をさらってしまえ
 ・縄を取り出し、気づかれないようにイルカ先生に近づく
 ・効果音
 それ!!

(イルカ先生) きゃー!! ・舞台上を引きずり回す
 (イルカ先生) 助けてー!! ・サメ、イルカはける ・照明



②子ども達の自己紹介

- ・イカ登場舞台右手から登場
- (イカ) よ〜し、今日も幼稚園に1番に来たぞ!!
どんな本を読もうかな?? ・本棚に近づき、本をとる
これにしよう!! ・タコ登場舞台右手から登場
- (タコ) 今日は僕が1番についだぞ〜♪
- (イカ) ざ・ん・ね・んでした〜
- (タコ) なんだ、イカくんいたんだ
- (イカ) そんな、短い足じゃ 僕に追いつけないよ
- (タコ) そんなことないよ
この海の中で1番足が長いのは僕なんだから!!
- (イカ) 僕だよ!! ・舞台の真ん中へ一歩踏み出す ・演奏が始まる
『 ぼくは足10ポンのイカです 透き通った白い〜肌 赤には負けません 三角
のあたammadって タコ君よりすてきでっしょ イカがです〜〜〜♪ 』
- (タコ) そんなこと無いんだから ・イカを押しつけタコが舞台の中央へ ・演奏はじまる
『 ぼくは足8ポン真っ赤なタコです 口から出す墨で 皆はいちころだ 見てよほっ
ら このか・ら・だ だれよりっも かゝこいい イカには負けないぞ!! 』
- (イカ) いや、僕の方が強いよ! だって、喧嘩だっていつも勝ってるし
- (タコ) そんなことないし 僕だって強いし、足だってこんなになが〜いし!
・ハリセンボン (以下ハリ) が舞台右手から登場
<イカ、タコで喧嘩を続けている> アドリブ
・足を1回転 ・ハリは足にあたり舞台中央へ
・演奏はじまる ・イカ、タコは少し後ろに下がり、並びリズムを取る
- (ハリ) 『 わたしおてんばさん 名前はハリセンボン かわいいおしりっでしょ
ぷりぷりプリティー なのになんも とばあっちり このからだ 汚れちゃう
どうしてくれるのよ!! 』
もう、白でも赤でもかわんないよ!!
<3人でイザコザ>
・アンコウ (以下アン) がゆっくりと舞台右手から登場
・3人をよそ目に中央へ近づいていく
- (アン) 今日も一日幼稚園ががんばろ〜、 また喧嘩やってるよ 毎日うるさいな〜、
・中央へ着たら演奏はじめる ・3人は喧嘩を止め、並びリズムを取る
『 ぼくはのんび〜りや 名前はアンコウ 皆の喧嘩なんて どうでもいいよ
それよりも 見てみてよ カッコいい このライト ピカピカ光る 』
<3人はその場で喧嘩を再開> ・アンは耳を塞ぎ、舞台の後ろ
<カニが魚を苛めながら登場> ・魚をはじけ飛ばし、舞台中央へ
・演奏はじまる・後ろの4人はその場で並び、リズムをとる
・魚はその場でリズムをとる
- (カニ) 『 わたしかわいい カニのお姫様 すてきな
はさみで あなたもとりこ かわい
いでしょ すてきでしょ この海1番なの
世界は私のもの 』
<喧嘩を再開> <カニは魚に近づき、苛めて
舞台中央に押し出す> ・演奏はじまる
- (魚) 『 僕は泣き虫で 地味な魚 喧嘩は止めよう



よ 仲良くしよう 痛いだろ 叩くなっよ 僕って 強いんだよ って言えたらな 』
 <それぞれに喧嘩を再開>

③冒険へ

(カメ園長)

皆さん、おはようございます

<子ども達気づかない> 前より大きな声で

(カメ園長)

皆さん、おはようございます!!

(アン)

あ、カメ園長先生だ!!

(子ども)

園長先生だ!!

<慌てて並ぶ> 並び終わってから

(カメ園長)

皆さんおはようございます

(子ども)

おはようございます

(カメ園長)

あれ〜 今日はイルカ先生はまだ来ていないのかい??

(子ども)

知らない〜

舞台中央へ移動しながら子ども達に聞くように

(カメ園長)

皆はなんで、イルカ先生が来ていないのか 知っているかい?

(子ども達)

知ってる!! <子ども達からイルカ先生がいなくなった原因をみる>

(カメ園長)

みんなイルカ先生はサメに食べられたんだって

(子ども)

ええ〜!! <パニック>

(カメ園長)

まあまあ、みんな落ち着いて 私が助けに行くよ

・ノソノソと舞台を去ろうとする

(カニ)

園長先生!! そんなに遅いんじゃ イルカ先生はサメに食べられちゃうよ!!

(カメ園長)

じゃあ、皆でイルカ先生を助けに行ってくれるかな?

(アン)

ええ〜 でも、サメって怖いよね

(イカ)

イカにも!!

(ハリ)

あ〜〜なに大きなサメに勝てるわけ無いよ!! 皆食べられちゃうよ!!!

(イカ)

イカにも!!

(タコ)

イカ君さっきから イカにも!!しか言っていないよ

(カニ)

たしカニ〜 <魚以外、喧嘩を始める>

・魚は皆の様子を伺いながら舞台中央へ ・魚が中央辺りに来たら、音楽が流れる

(魚)

皆喧嘩してる場合じゃないよ 早くイルカ先生を助けなければ!!

・魚は舞台右袖へ走って掃ける ・カニが中央へ

(カニ)

まあ、私はサメなんて怖くないから行くけど

・カニの様に歩き、舞台右袖へ掃ける ・タコ、イカが舞台中央へ

(タコ)

ええ〜でも〜 ・タコを押しつけて

(イカ)

じゃあ、タコ君は来なくていいよ 僕は行くけど 大好きなイルカ先生を助けるためだもん ・イカを押しつけて

(タコ)

僕の方がもっともっとイルカ先生のことが好きだよ イカ君より僕の方が強いし

・イカ、タコが舞台右袖へ掃ける ・ハリが舞台中央へ

(ハリ)

どうしよ、どうしよ 皆行っちゃった!!

・皆を追いかけるように舞台右袖へ掃ける ・アンが舞台中央へ

(アン)

あれ?? みんな置いてかないでよ〜 ・舞台右袖へ掃ける

<カメ園長は皆を見送る> ・カメ園長は舞台中央へ



(カメ園長) みんな喧嘩しないか心配だな～～ そうだ、今日来てくれたお友達も 皆のことを応援しておくれ

・ノソノソと舞台右袖へ掃ける ・カメが掃ける途中から {音入れる}
{カーテンを閉める} {岩を移動} ・照明

④道のり

・子どもたちが掃けた順番に舞台右袖から出てくる ・ネガティブスペースを活用

(アン) ねえ、みんなどこに行くの? ・みんな首を傾げる

(魚) そう言えばサメの住家ってどこなんだろう?

(こども) どこなんだろう

・海老の登場音を流す ・海老登場
・みんなびっくりする

(イカ) あれは、この海のことでなら何でも知ってる
海老のおじいさんとおばあさんだよ

(海老妻) そうだよ

(海老夫) みんなどうしたんだい?

(海老妻) なにか探してるの?

・アンが前にでる

(アン) はい、実はイルカ先生がサメにさらわれて
しまったんですよ

・アンに近づきながら

(海老夫) 聞こえないな～～ ・繰り返し

(海老) ええ～～!! それは大変だ!!

サメならあっちにいるぞ

・舞台右袖に向かう ・掃ける直前に

(海老夫) <道のりが険しいのを伝える>

・それを聞いて皆ビビル

(魚) <皆を奮起させる>

(海老妻) それならもう何も言わないよ皆気をつけなよ

・海老掃ける

ダンス サメの住家への道のりを表現



⑤サメとの対決

・大道具の人はイカリ、オリを出す ・鍵を用意
・イルカ先生は舞台へ移動

(イカ) ここはどこ? <みんなで周りを見渡す>

・アン前に出ながら

(アン) 僕に任せてよ!! ・光らせる動作をする

(イカ) すご～い!! アンコウの光で明るくなった!!

(ハリ) 皆見てあんな所にイルカ先生がいる!! ・照明をイルカ先生にあてる

・イルカ先生を見つける ・皆舞台左によりになる

<みんな喜んで駆け寄ろうとする> ・皆を制止するように

(イルカ先生) 来ちゃだめ!! ・皆止まって少し後ずさり ・鍵を指差しながら

(魚) あ!! あんな所に鍵がある!! <みんな気づく>

きっとイルカ先生のオリの鍵だ!! よし僕が取ってくる

(カニ) 危ないよ!

(ハリ) 気をつけて ・魚は鍵を取りに行く

(アン) 大丈夫? ・魚は鍵を開ける ・音を出す <皆で喜ぶ>
 ・魚がオリを開けようとする ・照明チェンジ ・サメの登場音 ・サメ舞台へ

(サメ) 誰だ誰だ!! 俺様の家にズカズカ入って来るのは!!
 <皆ビビルが> ・魚はサメと対峙 ・仲間を見て

(魚) みんな、なんで隠れてるんだよ! イルカ先生を助けるんだろ!!

(カニ) よし、サメなんかには負けるものか

(タコ) うん、サメには負けないぞ!

(アン) サメをヤツケヨウ!! <おおお!!> ・音チェンジ ・魚に襲い掛かりながら

(サメ) 先ずはお前からだ!! ・魚が負けそうになる

(カニ) 魚が危ない 私のこのハサミで!! ・ハサミを振り下ろし魚を助ける ・効果音
 <サメ痛がる>

(サメ) でもそんなんじゃビクともしないぜ!! ・カニを押し返す <カニを心配する>

(魚) カニのハサミが効かないなんて

(アン) よし 今度は私よ!!このハリで、ちくちく〜♪
 ・効果音 <サメ痛がる>

(サメ) そんなんじゃビクともしないぜ!! ・皆を押し返す <みんな弱気発言>

(サメ) いつもいつも喧嘩ばかりしてるから そんなんじゃ、俺様は倒せないぜ!!

(タコ) もうだめだよ〜

(カニ) もう帰りたいよ〜

(ハリ) お母さん〜

(イカ) イカにも〜

(魚) 皆弱気になっちゃ駄目だ!! 皆のいい所を合わせたら サメにだって絶対に勝てるよ!!

(イカ) そうだね 皆で力を合わせて頑張ろう ・みんな立ち上がる
 よ〜し、僕のこの墨でサメの目を真っ黒にしてやる

(タコ) イカ君だけじゃ駄目だよ 二人でいくよ ・サメに墨をあびせる

(魚) 最後のとどめだ 皆行くぞ!! <おおお!!> ・サメ皆を押し返す
 <会場の子供達に応援を頼む>

(魚) よ〜し みんな行くぞ!! <おおお!!>
 <サメ倒れる> ・サメは舞台端へ <魚、ハリ、がオリを開ける>
 <タコ、イカ、アン、カニがサメを倒した喜びを表現> ・イルカ先生開放
 ・イルカ先生を取り囲む ・音チェンジ

(園長) お〜い お〜〜い

(みんな) カメ園長先生遅いよ

(園長) イルカ先生無事だったんですね
 かった、よかった

(イルカ先生) みんなのおかげで助かったわ

(魚) みんながいたから助けることができたんだ

(カニ) アンコウが明るくしなかったら
 真っ暗で何にも見えなかったよ

(アン) ありがとう ハリゼンボンのハリもすごかったよね

(ハリ) そうかしら カニさんのハサミも凄かったわ

(カニ) えへへ、ありがとう

(イカ) タコ君と一緒に墨をはいてくれたから 墨の力も2倍になったよ

(タコ) 僕も一人じゃむりだったよ いっつも喧嘩ばかりしてるけど これからは仲良くしようね



- (魚) みんな凄かったよ でも～～僕は、、、
- (カニ) 何言ってんの 魚君がいなかったら イルカ先生のオリも見つけられなかったし
- (ハリ) 1番最初にイルカ先生を助けに行こうって 言ったのも魚くんだったしね
- (タコ) みんなが弱気になった時 元気つけたのも魚くんだったよね
- (魚) みんなありがとう そして、今日ここに来てくれた皆さんもありがとう
- (みんな) ありがとう
- (魚) みんなのいいところが集まればきっと何でもできるよ
- (イルカ) みんなのいいところ先生はちゃんと見てたわよ
- (園長) ほうほう 皆の小さな勇気が集まれば大きな力になるんだね
- (サメ) え～～ん。え～～～ん <みんな怖がる>
- (アン) ええ～～でもやっぱりサメって怖いよね
- (イカ) イカにも。 さっきも苛められたしね
- (サメ) もう、意地悪しないから ごめんなさい
- (ハリ) え～～でもわかんないよね
- (魚) でも、サメさんがいなかったら
皆で力を合わせることもなかったよね
- (カニ) たしかに
- (タコ) じゃあさじゃあさ サメさんもお友達になろうよ
<みんなで受け入れる>
- (イルカ先生) みんなが仲良くなって先生本当にうれしいわ
今日来てくれた皆さんもお友達と仲良くしてね
これからみんなで仲良くしていきましょう
<は～～～い>

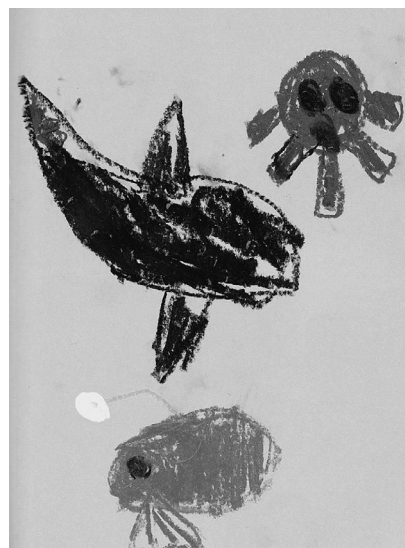
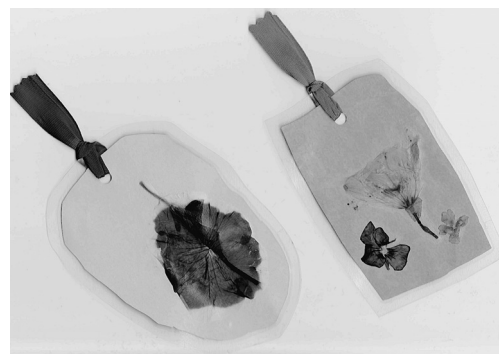
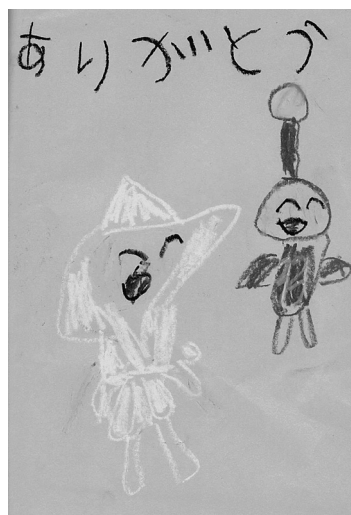
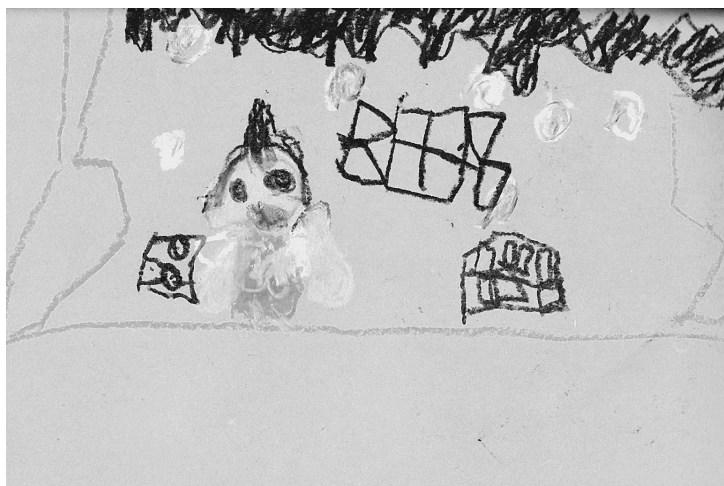
ED 明日も友だち



園児からのお礼

たくさんいただいた中の一部を紹介





A report on the process for making original operetta

FURUYA Shoko, SAWANOBORI Fumiko
and TAKANO Makiko

Key words : operetta, creation, expression